

NAMコレクション2025 第Ⅱ期
国立美術館 コレクション・プラス

マルセル・デュシャン + 松澤宥

2025 年

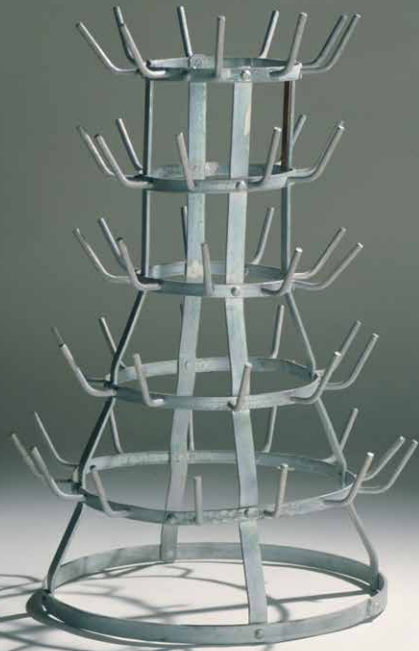
8月2日(土)



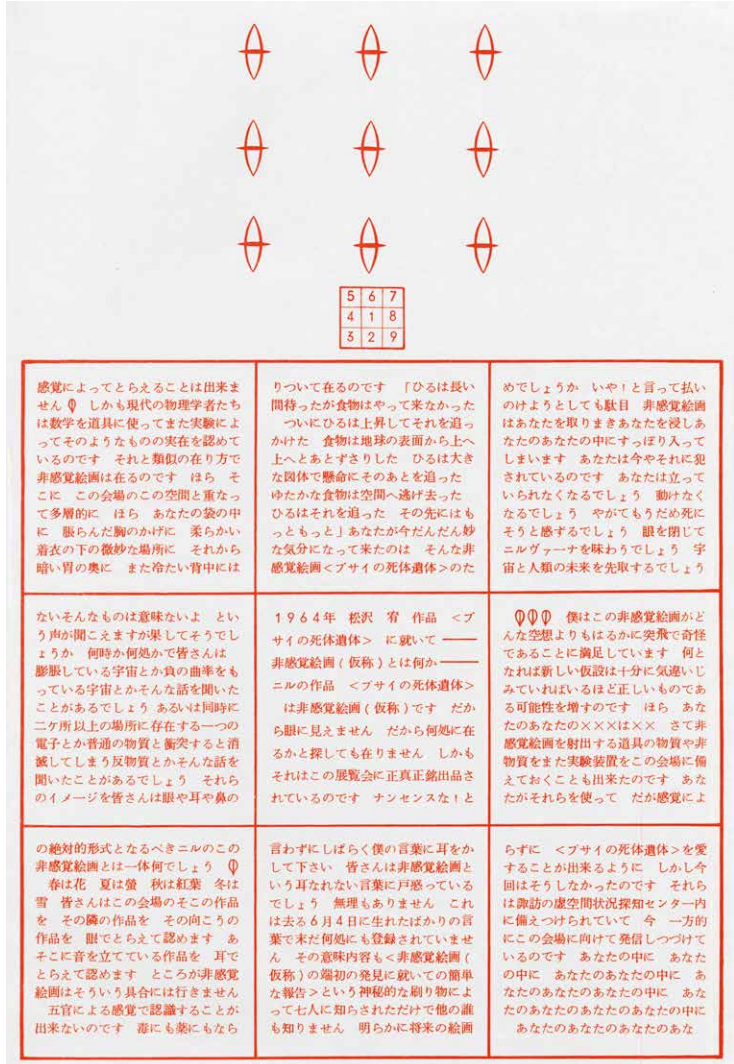
10月7日(火)

オブジェの

誕生と消滅



マルセル・デュシャン《瓶乾燥器》1914/1964 京都国立近代美術館
©Association Marcel Duchamp / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E6060



松澤宥《ブサイの死体遺体》1964
長野県立美術館

●観覧料 | コレクション展 [本館・東山魁夷館共通]

一般 700 (600) 円、
大学生及び75歳以上 500 (400) 円、
高校生以下又は18歳未満無料

※()内は20名以上の団体料金及び各種割引料金

※割引の併用不可

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料

※高校生、大学生及び75歳以上の方は、身分が確認できるものをご提示ください

※企画展との共通チケットは展覧会ごとに料金が異なります

開館時間 | 9:00～17:00 (展示室入場は16:30まで)

休館日 | 水曜日

会場 | 長野県立美術館 本館 2F コレクション展示室

主催 | 長野県、長野県立美術館

特別協力 | 京都国立近代美術館、国立アトリサーチセンター

NAM 長野県立美術館
Nagano Prefectural Art Museum

コレクション・プラスとは？
国立美術館と国立アートリサーチセンターによる「国立美術館 コレクション・プラス」は、全国各地の美術館と連携し、その所蔵作品の展示（コレクション展）を、より充実したものとするための事業です。開催館のコレクションに国立美術館の所蔵作品1点ないし数点を加えることで、より高いテーマ性をもつ小特集展示を両館の協働の下に実現していくことを目指しています。

●関連イベント

ギャラリートーク

日 時 | 8月16日(土) 14:00～

会 場 | 本館2階 コレクション展示室

講 師 | 担当学芸員

* 要当日観覧券、事前申込不要

スライドトーク

日 時 | 9月7日(日) 14:00～(開場 13:30)

会 場 | 本館3階 レセプションルーム

講 師 | 担当学芸員

定 員 | 40名(先着順)

* 参加無料、事前申込不要

●同時開催

[コレクション展]

NAMコレクション2025 第Ⅱ期

「特集 終戦80年」

8/2(土)～10/7(火)

東山魁夷館コレクション2025 第Ⅱ期

7/25(金)～10/14(火)

[オープンギャラリー]

公開制作 vol.5 古橋まどか 野のさま

6/28(土)～9/28(日)



〒380-0801 長野県長野市箱清水1-4-4

Tel. 026-232-0052

<https://nagano.art.museum/>

諸般の事情により、会期等に変更が生じる場合があります。最新情報は当館ホームページをご覧ください。



マルセル・デュシャン《泉》1917/1964 京都国立近代美術館
©Association Marcel Duchamp / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E6060



松澤有《ブサイ箱YM》1961 長野県立美術館



松澤有《世界改造に関するブサイ本の周辺》1963 個人蔵(長野県立美術館寄託)

●アクセス

長野県立美術館には、一般来館者のための駐車場はありません。公共交通機関、または近隣の有料駐車場をご利用ください。城山公園駐車場をご利用の場合、観覧券のご提示により、駐車料金の割引があります。なお、併設の東山魁夷館北側の駐車場は「信州パーキング・パーミット制度」専用駐車場です。

[公共交通機関]

▶バス(アルピコ交通)

JR 長野駅善光寺口バス乗り場①から乗車時間約15分
[11系統] 善光寺経由宇木行、[16系統] 善光寺・若槻団地経由若槻東条行、[17系統] 善光寺・西条経由若槻東条行
いずれも「善光寺北」下車 徒歩3分
[10系統] 善光寺行(びんずる号)「善光寺大門」下車 徒歩10分(土日祝日は「城山公園前」下車 徒歩1分)

▶鉄道(長野電鉄)

「善光寺下駅」下車 徒歩15分



日本語



English

「オブジェ」は20世紀以降の美術を語る上で不可欠な概念の一つです。元々は物体、客体を意味するフランス語(Objet)ですが、美術の文脈では本来の機能を剥奪され、作品として提示された日用品等を指す言葉として用いられてきました。その代表例として挙げられるのが、マルセル・デュシャン(1887～1968)による、瓶掛けや便器といった既製品を使った「レディメイド」です。以降オブジェの概念は拡張されていき、既製品を加工したり組み合わせたものから、作家によって一から作られたものまで、様々な形態のオブジェが作られます。長野県出身の松澤有(1922～2006)もオブジェを手掛けた一人で、「物による美術」と呼んだ、一種の禍々しさを漂わせる不思議なオブジェを発表していました。しかし松澤は、1964年に「オブジェを消せ」という啓示を受けると、物質を伴わない観念芸術へと向かいます。奇しくも、同年はミラノの画廊によりデュシャンの13種類に及ぶレディメイドのレプリカが再制作された年でもありました。本展ではレディメイドを起点に、二人の作家とオブジェを巡る関係を考察します。



長野県立美術館

Nagano Prefectural Art Museum